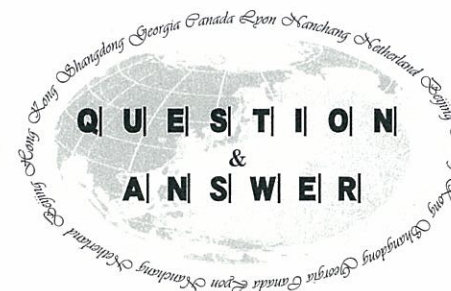


インフルエンザ

2009.4

Vol.10 No.2

- [巻頭言] 酵素学からみえてくるインフルエンザ感染とインフルエンザ脳症
- [鼎談] インフルエンザー最近の話題
- [疫学] インフルエンザの随伴症状について
- [治療] 耐性ウイルスを見据えた抗インフルエンザ薬治療ーオセルタミビルの有効性の推移ー
- [公衆衛生] 世界各国における新型インフルエンザ対策の現状
- [政策] わが国の新型インフルエンザの影響予測とその対策



抗体マスクが話題となっていますが、 どのようなマスクでしょうか。



柏木征三郎

独立行政法人国立病院機構
九州医療センター名誉院長

インフルエンザの予防にマスクは欠かせないものです。インフルエンザウイルスの感染経路としては、飛沫感染および空気感染がありますが、感染門戸は呼吸器です。

これに対してマスク(サージカルあるいはN95マスク)が最も手軽で安価な感染予防対策として、1918年のスペインかぜの時代から用いられてきています。

マスクの効果の判定はきわめて難しい面がありますが、比較的大きい粒子による飛沫感染はサージカルマスクでも感染予防の可能性はかなり高いと考えられます。しかし、空気感染の予防対策はN95マスクでの効果は高いですが、サージカルマスクでは不安な面があります。

このため、マスクにインフルエンザ抗体を担持したマスクが開発されています。従来、インフルエンザ抗体は“鶏卵”にウイルスを接種して鶏卵の卵黄から取り出していました。しかし、鶏卵からとれる抗体量は少なく均一ではありません。ところが、最近、ダチョウにインフルエンザウイルス(H1N1, H3N2, H5N1 および B など)を接種し、その卵黄から多量のインフルエンザ抗体を抽出する方法が開発されました。ダチョウの卵は鶏卵の25倍とされており、より均一で安価な抗体がとれることから優れた抗体マスクが作製されるようになってきました。

効果について、ヒトにおける治験は困難ですが、ニワトリを対象とした実験ではH5N1ウイルスの感染予防が認められています。優れたマスクと考えられています。

KEY WORDS

- インフルエンザ
- インフルエンザ抗体
- 飛沫感染
- 空気感染
- マスク